



## 平成30年度成鶏更新・空舎延長事業(第2回)の実施について

既に「日鶏協速報」にてお知らせいたしました。平成31年2月1日の鶏卵の標準取引価格(日毎)が142円/kgとなり、安定基準価格163円/kgを下回りましたので、平成30年度2回目の成鶏更新・空舎延長事業が発動となりました。

鶏卵価格については、平成31年1月早々の鶏卵取引価格は大幅に低落し、15年ぶりとなる異常な低卵価となり、その後も例年を下回って推移しています。

こうした中、鶏卵の需給改善を早期に図るためには、本事業に積極的に参加していただき少しでも多くの成鶏を淘汰することが重要となっておりますので、特に大規模生産者の方々の積極的な成鶏淘汰及び雛の導入抑制へご理解・ご協力をお願いします。

本事業に参加する生産者にあつては、下記事項にご留意のうえ、事業の円滑かつ適正な実施をお願いします。

1. 下記の成鶏更新・空舎延長事業のポイントなどにより、本事業へ「参加できるかできないか」を確認して下さい。
2. 平成30年度成鶏更新・空舎延長事業参加通報書(第2回)をFAX又は郵送にて本協会へ速やかに通報して下さい。
3. 食鳥処理場への申込・出荷に当たっては、「成鶏更新・空舎延長事業参加に係る成鶏の出荷計画申込書」により食鳥処理場に対して申込、承諾を得て下さい。その際、食鳥処理場の過重労働等にならないよう関係法令等に留意しつつ、食鳥処理業者と十分に調整の上、計画的な出荷をお願いします。
4. 出荷完了後30日以内に事業参加申請書類を作成し、本協会へ提出して下さい。
5. 本事業の取組完了後、速やかに、事業実施状況報告書類を作成の上、本協会へ提出して下さい。
6. 本事業の関係証拠書類を事業終了後7年間保管して下さい。

また、報告書類の審査及び現地確認において、60日以上の空舎期間や雛の再導入等の要件を満たしていない場合には、奨励金を返還いただくこととなりますのでご留意ください。



## 【成鶏更新・空舎延長事業のポイント】

### 1. 対象期間（成鶏の出荷期間）に出荷し、食鳥処理できるか

鶏卵の標準取引価格（日ごと）が安定基準価格（163円/kg）を下回った日の30日前から安定基準価格を上回った日の前日までとなります（ただし、上回った日の前日までに、成鶏の処理を食鳥処理場に申し込んでいる場合は、安定基準価格を上回った日から起算して30日後までとなります。）。

### 2. 申請しようとする対象鶏舎は一棟の建物か又は明確な間仕切りができている建物か（一棟の鶏舎丸ごと又は間仕切り内の成鶏全てを出荷することが条件）

\* 明確な間仕切りができている建物とは、壁、カーテン、金網等によって明確に成鶏の飼養が区分されている建物のことで、その部分の成鶏を出荷した後、水洗等による清掃を独立して合理的に実施できることが条件。

### 3. 対象成鶏に、全ての飼養成鶏の出荷が完了した日の翌日から、ひなの再導入を開始する日の前日までに60日以上空舎期間を設けることができるか（その際、事業参加申請書類に添付する成鶏出荷時及び空舎時の写真（日付入り）を各2～3枚撮影しておく必要があります。）。

### 4. 対象鶏舎に、成鶏出荷後90日以内に採卵用ひなを導入することができるか（再導入羽数は、対象鶏舎ごとに食鳥処理場で食鳥処理（検査羽数）された羽数の4割以上であることが条件です。）

【成鶏更新・空舎延長事業に関する様式は下記アドレスにあります。】

<https://www.jpa.or.jp/stability/documents.html>



## 高病原性鳥インフルエンザ予防対策の強化・徹底について

平成30年度においては、国内の家きんでの高病原性鳥インフルエンザ及び低病原性鳥インフルエンザの発生は確認されていないものの、野鳥の糞便から低病原性鳥インフルエンザウイルスが検出されています。

また、近隣の台湾やインドネシアなどでは、家きんでの高病原性鳥インフルエンザが確認され、韓国では野鳥の糞便から低病原性鳥インフルエンザウイルスが検出されていることを踏まえれば、我が国への本病ウイルスの侵入リスクは高まっていると考えられます。本病の過去の事例では、1月から2月にかけて発生が多く見受けられますが、平成29年3月下旬に2件の発生が確認されており、まだ油断できない状況にあります。

会員の皆様には、下記の点検・確認事項にご留意の上、**引き続き本病の嚴重な警戒と、更なる予防対策の強化・徹底**をお願いします。

### (点検・確認事項)

- 野鳥、ねずみなどの野生動物対策として、
  - ・ **防鳥ネットなどの設置とその破損**
  - ・ 家きん舎の扉、壁、屋根、床などの破損や隙間
  - ・ 集卵コンベアや除糞ベルトと家きん舎の壁の間の隙間など、**小型の野生動物が家きん舎の外部から侵入しうる経路がないか、家きん舎の内部及び外部から詳細に点検し、十分でない場合には修繕**して下さい。
- 車両は農場の出入口で入念に消毒し、家きん舎に入る者は、特に手指、衣服及び長靴の消毒を徹底して下さい。**(消毒などの措置は例外を作らずに必ず実施する、記帳により習慣付けるといった取組が重要です。)**
- **飼養家きんの毎日の健康観察を念入り**に行ってください。死亡数が増えた、元気がなくなったといった**異状を見つけた場合には、直ちに最寄りの家畜保健衛生所に連絡**して下さい。

<農林水産省 鳥インフルエンザに関する情報>

<http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/tori/index.html>



## アニマルウェルフェア（AW）対策協議会発足へ

昨年（平成30年）10月30日の理事会でその設立が承認された日本養鶏協会と国際養鶏協議会合同のAW対策協議会は、会則の準備が遅れ、正式に発足していませんでした。

今年1月16日の緊急理事会で会則案が承認され、続く18日に協議会の主要メンバーによる会合で会則はおおむね了承され、同日付で協議会は正式に発足の運びとなりました。

協議会の役員等メンバーは以下のとおりです。

### 1. AW対策協議会役員

委員長	齋藤 利明	(一社) 日本養鶏協会
副委員長	杉原 勲	(一社) 日本養鶏協会
〃	坂本 修三	(一社) 日本養鶏協会
〃	赤木 八寿夫	(一社) 日本養鶏協会
〃	秋田 正吾	(一社) 日本養鶏協会
〃	松本 義治	(一社) 国際養鶏協議会
〃	仙田 学	(一社) 国際養鶏協議会
〃	荒木 俊朗	(一社) 国際養鶏協議会
政策担当顧問	秋田 善祺	(一社) 国際養鶏協議会

### 2. 事務局

事務局長	浅木 仁志	(一社) 日本養鶏協会
事務局長補佐	須田 孝	(一社) 国際養鶏協議会

昨年11月22日に「巣箱」と「止まり木」の設置を義務付けたOIE（国際獣疫事務局）のAW条項の修正2次案が公表されました。

同協議会では、それに先立つ11月12日に吉川農水大臣に要望書を提出し、12月20日には農林水産省の畜産振興課長と動物衛生課長に要望書を提出するなど、日本の気候風土や生産システムを踏まえたいわば日本型のアニマルウェルフェアの策定を求めて政治行政へ力強く働きかけました。

そうした流れの中で、12月27日に書面理事会の承認を受け、日本養鶏協会と協議会は、年末から全会員等を対象に署名活動を開始しました。

今年の1月11日には、こうした協議会の活動が功を奏し、OIEの採卵鶏のAW条項の修正2次案に対する力強い反論が農林水産省からOIEに提出されました。

今後、修正3次案がOIEから加盟国に示されることとなりますが、その内容によっては同協議会のさらなる活動が期待されます。



## 2019年 I E C 国際会議のご案内

2019年のIEC国際会議が4月7日（日）から9日（火）までの日程で、モナコ国モンテカルロのル・メルディアン・ビーチプラザホテルで開催

IEC（国際鶏卵委員会）国際会議は、世界各国の鶏卵の生産・流通・販売等の関係者が一堂に集い、最新情報の交換、商談、ネットワークの構築や人脈づくり等のために、IECが包括的な事務局となって年に2回開催される国際会議です。

前回は京都で開催されました。今回の日程は以下のとおりです。

4月7日（日）

- 13:00 参加登録開始
- 18:00 議長による歓迎レセプション

4月8日（月）

- 9:00 会議セッション：小売りの現状（2人のスピーカーによる）
- 10:40 コーヒーブレイク
- 11:20 会議セッション：飼料について（同上）
- 12:20 ランチ
- 14:10 会議セッション：世界の鶏舎飼養の将来（同上）
- 15:30 経営の価値を継続させるためにすべきこと（同上）
- 16:35 ネットワーク構築のためのレセプション

4月9日（火）

- 9:15 会議セッション：EPIについて（2人のスピーカーによる）
- 10:45 コーヒーブレイク
- 11:30 続き
- 12:15 ランチ
- 14:00 鶏病からあなたの経営を守るために（3人のスピーカーによる）
- 19:00 非公式晚餐会

会場となるル・メルディアン・ビーチプラザホテルは、南フランスのニース・コートダジュール空港から東へ15キロほどの距離にあります。

なお、以上の情報は、パソコンで検索できます。





## 協会活動報告

[青字下線部クリックで、\(一社\)日本養鶏協会ホームページ内  
該当事業のページが開きます](#)

### (1) 鶏卵生産者経営安定対策事業

#### ① 価格差補填事業の事業参加者との契約数量 (トン/月当たり)

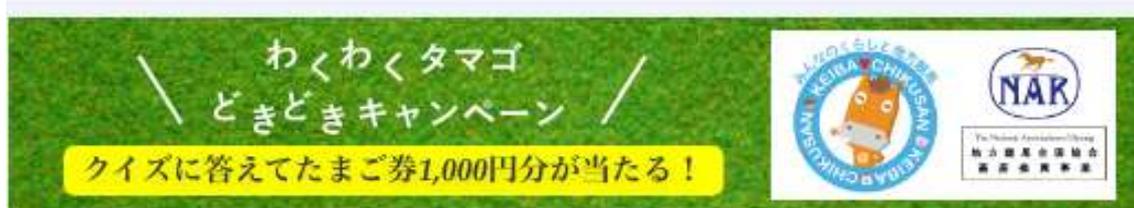
平成27年度	161,936
平成28年度	164,846
平成29年度	162,353
平成30年度	169,171

#### ② 1月の標準取引価格 111.72 円/Kg

平成30年度補填基準価格 185 円/Kg

平成30年度安定基準価格 163 円/Kg

### (2) 国産鶏卵に関する普及啓発事業



普及開発事業では、下記のとおり、広く一般消費者を対象に Web を通じた国産鶏卵の PR キャンペーンを実施しています。

**【応募期間】** 2019年1月23日(水)～2月22日(金) 18:00

**【賞品】** たまご券(1000円分) 50名様

**【応募方法】** 応募フォームから、クイズの回答・住所・氏名など必須事項を入力してご応募ください。

※ご応募はお一人様1回限りとさせていただきます。

※ご応募は日本国内にお住まいの方に限らせていただきます。

※地方競馬の収益金は畜産振興及び地方財政の改善に活用されています。

《(一社)日本養鶏協会 HP 内お知らせ わくわくタマゴときどきキャンペーン》

<https://www.jpa.or.jp/promotion/>



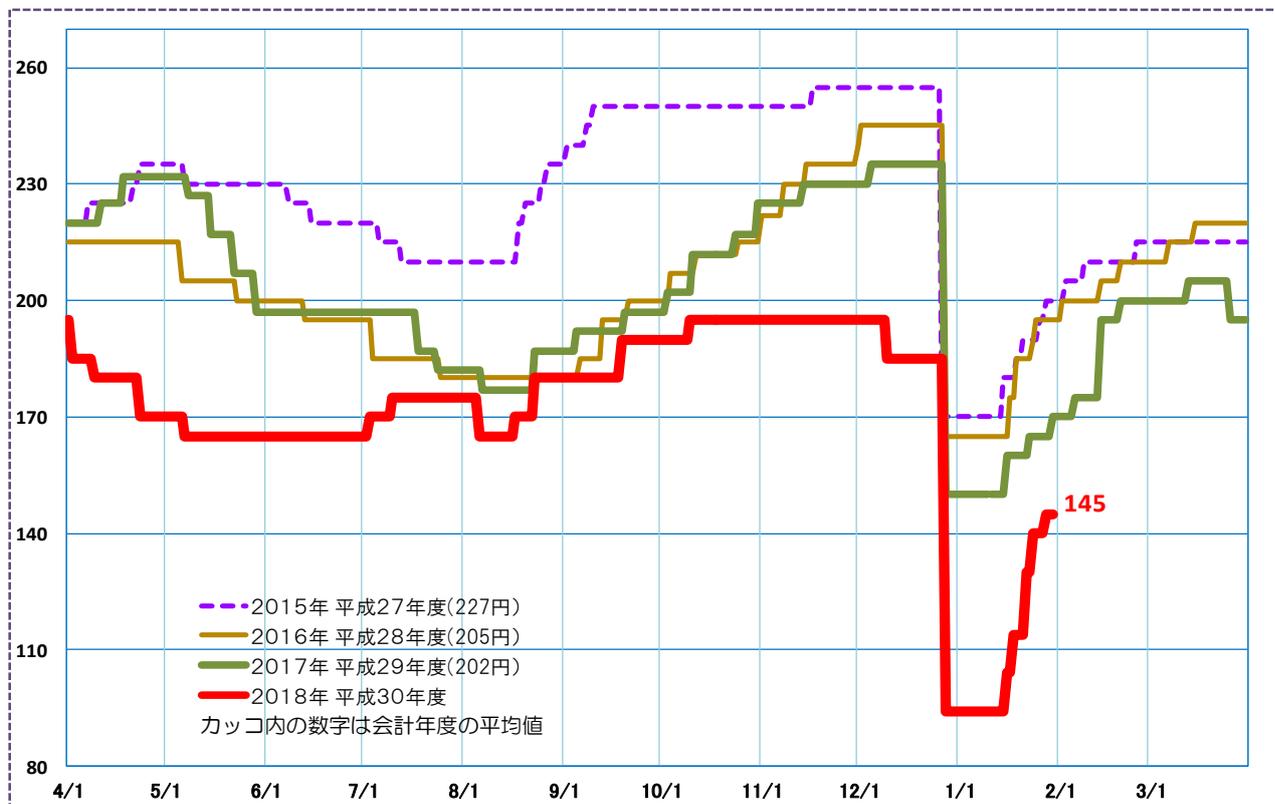
## 統計データ

### 【相場動向】 過去10年間の1月相場<Mサイズ>

	平均値	高値	安値
平成22年	151	203	119
平成23年	184	218	164
平成24年	149	203	114
平成25年	171	208	154
平成26年	224	258	204
平成27年	192	223	174
平成28年	182	218	164
平成29年	179	213	159
平成30年	159	188	144
平成31年	121	163	94
平均値	171	210	149

平成31年1月の鶏卵相場（東京全農Mサイズ）は、平均値（121円）、高値（163円）、安値（94円）ともに、過去10年間で最も安い相場となっており、特に過去10年間平均と比べ平均値は3割、安値は約4割安い相場となっています。

### 【鶏卵相場推移 2015年～2018年 会計年度 東京全農Mサイズ 円/Kg】



年明け早々の鶏卵相場は94円と大幅に低落し、15年ぶりとなる異常な低卵価となりました。その後、中旬より卵価は上昇に転じ、月末には145円まで戻したものの、前年に比べ25円安い相場となった。



## 【鶏卵関係主要計数】平成30年11月までの1年間の主要計数推移

	雛餌付羽数(出荷)		配合飼料出荷量		家計消費量		鶏卵相場	
	数量(千羽)	前年比	成 鶏 用		一人当たり		東京全農M	
			数量(千ト)	前年比	数量(グラム)	前年比	前年	本年
12月	9,081	98.6%	536	102.1%	936	103.0%	245	234
30年 1月	9,387	101.2%	477	103.9%	889	104.6%	179	159
2月	9,034	109.1%	461	102.7%	862	102.2%	204	189
3月	9,940	102.0%	522	101.7%	896	102.3%	217	201
4月	9,503	104.3%	477	101.8%	885	97.6%	227	179
5月	10,035	111.1%	503	101.2%	965	108.4%	216	165
6月	9,193	94.2%	482	101.6%	908	107.7%	197	165
7月	9,902	111.4%	446	98.0%	844	97.4%	191	173
8月	8,723	104.6%	488	99.9%	853	100.5%	182	172
9月	8,897	98.7%	451	97.2%	882	102.8%	194	184
10月	9,972	108.1%	508	104.2%	913	100.4%	211	194
11月	9,690	101.8%	502	101.6%	901	100.2%	228	195
1年間合計 平均(%)	113,357	103.8%	5,853	101.3%	10,734	102.3%	208(平均)	184(平均)

注：雛餌付羽数は全国推定値

- ・雛餌付羽数は、9,690千羽（前年比101.8%）と2ヵ月連続して前年を上回り、年間でも前年比3.8%上回って推移しています。
- ・配合飼料出荷量は、502千トン（前年比101.6%）と2ヵ月連続して前年を上回り、年間でも前年比1.3%上回って推移しています。
- ・鶏卵の家計消費量は、901グラム（前年比100.2%）と4ヵ月連続して前年を上回り、年間でも前年比2.3%増と堅調に推移しています。
- ・冬本番を迎え、家庭における鶏卵需要の増大が期待できる一方で、雛餌付羽数並びに全国的な供給量の増加が続いており、引き続き鶏卵価格の動向について注視が必要である。

【日鶏協ニュース】 発行者：一般社団法人 日本養鶏協会

〒104-0033 東京都中央区新川二丁目6番16号 馬事畜産会館内（5階）

TEL：(03)3297-5515 FAX：(03)3297-5519 発行日 2019年2月1日

編集・発行責任者：小田上浩史(info@jpa.or.jp)

